

新たな「荒川区学校教育ビジョン」 パブリックコメントの実施結果について

1 募集期間

平成29年1月13日（金）～1月27日（金）（15日間）

2 対象者

- (1) 区内に在住、在勤、在学する方
- (2) 区内に事務所、事業所を有する個人及び団体
- (3) 本ビジョンにより影響を受ける個人及び団体

3 実施方法

平成29年1月21日発行の区報で本パブリックコメントを周知したほか、素案を区ホームページに掲載するとともに、教育委員会指導室、区立各小・中学校、区立各図書館（荒川図書館を除く）において閲覧に供しました。また、1月13日に小・中学校PTA会長を対象に説明会を開催しました。

4 意見提出者数

提出者：32名、意見数：32件

5 意見の概要及び区の考え方

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
1	新たな「荒川区学校教育ビジョン」に同意する。	ご同意くださいます。ありがとうございます。区民の皆さまのご期待に応えるよう、子どもたちのために努めて参ります。	△
2	「ビジョン」というからには夢のある、あるいは子どもたちに夢をもたせるような内容にしていきたい。 例えば、英語に力を入れている荒川区なのだから、異文化体験なども、海外に留学するような制度を設けるなど検討していただけないか。	子どもたちに夢をもたせるのは、学校教育として大変重要だと考えています。 教育委員会では、区立小・中学生を対象とした国内で「ワールドスクール」を実施しております。この「ワールドスクール」は、英語だけを使う環境を意図的に作り、外国人の先生や留学生などと英語のみを使って活動しており、国内にしながら異文化体験ができる取組です。区では、高校生を対象に交流姉妹都市のウィーン市とホームステイ交流を実施しています。 ご意見を参考に、荒川区の子どもたちがさらに幅広い異文化体験ができるよう、子どもたちが大きな夢をもち、羽ばたいていけるような教育活動を工夫して参ります。	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
3	<p>多角的な視点で練られたしっかりとした教育ビジョンができあがったと評価できる。これを実施するには現場の教師の努力に負うところが大きい。現在の教師は少し忙しすぎるような気がする。ゆっくり子ども一人ひとりを見つめる時間のゆとりがないのではないか。学校教育は人が人を育てる場であるため、教師の個性や感性が大きく子どもに作用してしまう懸念もある。当然、教師が教育の理念を共有するのは大切なことであるが、未熟な教師がそのみにとらわれ優先することがあれば子どもが取り残されそうに思う。</p> <p>教育ビジョンの実施に当たっては、保護者の責任も伝えながら実践していただきたい。</p>	<p>教育委員会では、現場の教師の多忙さを緩和するため、学校司書、スクールカウンセラー、部活動の外部講師等の非常勤職員等を配置しています。また「荒川区学校教育ビジョン」の具体的な推進を図るため、「荒川区学校教育ビジョン推進プラン」を3年ごとに示していく予定です。その「推進プラン」で示すため、教師の事務作業の負担軽減の方策について検討を始めております。</p> <p>教育委員会は現場の教師に「荒川区学校教育ビジョン」の内容や考え方をしっかりと伝えていくとともに、特に、経験年数の少ない教師については研修の中でも取り上げて、どのようにビジョンの内容を子どものために活かしていくかなども合わせて教師とともに考えながら実践して参ります。</p> <p>また、新たな「荒川区学校教育ビジョン」では、柱5「学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる」と掲げており、学校、家庭が連携していくことは子どものためにとっても重要だと考えています。そのため、各家庭に協力を呼びかけながら実施して参ります。</p>	☆
4	<p>学校教育ビジョンなので幼稚園・保育園は内容には直接関わらないかもしれないが「園長」という言葉が出てこない。幼稚園・保育園と学校との連携は必要ないのか。</p>	<p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」は、中長期目標として「未来を拓きたくましく生きる子どもを育成する」を掲げています。この目標を達成するためには、子どもたちが夢や志を高くもって、未来を創り出していくために必要な資質・能力を、幼児教育の段階や、幼稚園・こども園、保育園、小学校、中学校が連携しながら確実に育てていくことが大切であると考えています。</p> <p>この趣旨を踏まえ、新たな「荒川区学校教育ビジョン」柱5「学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる」で、(5)「幼・保・小・中のつながりを意識した連携を進める」と掲げています。そして、小・中学校においては、今後も引き続き、保育園や幼稚園とも協力し合って参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
5	<p>現在、世の中は猛スピードであらゆる点で変化しているが基本的なことは変わらない。教育はまさに学校だけのものではなく、地域、学校、家庭等連携し合って成果の得るものである。</p> <p>幼児教育も保育園に預けて働く母親にとっては有り難いことだと思うが、子どもたちの育った保育園以外の子どもたちはその仲間に入れられないという現象が起きているようである。</p> <p>学力向上に関しては、問題はないが、派閥のような傾向ができてしまうようである。「他者を受け入れない」「入っていけない」ということに少しひっかかるものを感じる。</p>	<p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では、グローバル化などの社会の変化を見据えながらも、小・中学校における教育の根幹の普遍的部分も見失うことなく子どもたちがよりよい社会を創りだしていけるよう、育てていきたいと考えています。</p> <p>また、新たな「荒川区学校教育ビジョン」では柱2「こころとからだの健全な育成を図る」(1)「互いに認め合う教育を推進する」としております。こころの教育を大切にし、子ども自身が自分自身と同様に他者もかけがえのない存在として互いの人格を認め合うよう子どもたちを育成して参ります。</p>	○
6	<p>小学校では学習の成績がよいようだが、中学生になると下がっている。私立中学に進学しているからかもしれないが、その実態を教育委員会はしっかりとらえているのだろうか。そして、それを踏まえて対策をどのようにたてるのだろうか。</p> <p>この10年で、家庭はどう変わったのか、社会はどう変わったのか、学校はどう変わったのかなどをきちんと踏まえることが大切である。その部分が表面的であるように感じた。</p>	<p>区では、学力向上のために、学校図書館やICT機器の充実などのハード面、算数・数学における少人数、習熟度別クラス編成による指導など、小・中学校の違いや児童生徒の実態の違いに合わせて、様々な教育施策を実施して参りました。そうしたことが成果として徐々に表れつつあると考えております。</p> <p>社会や家庭などがこの10年間でどのように変わったのかにつきましては、荒川区で実施している世論調査や荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査をはじめとする区民への調査結果なども踏まえながら作成させていただきました。引き続き、これからの10年も、関係部局と連携し、家庭などの状況や変化についてしっかりと把握していくように努めて参ります。これからも国や区で実施している学力調査なども踏まえながら、さらに子どもたちの学力が向上していくように努めていきたいと考えております。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
7	<p>小学生の全国学力・学習状況調査の結果は全国の平均値よりプラスだが、中学生はマイナスになっている。プラスになるような対策はしているのか。</p> <p>平成22年は中学生の図書貸出率が高いが、全国学力・学習状況調査の結果は低い。荒川区は読書に力をいれているが、学力に結びついているのか。なぜこういった結果になるのか。</p>	<p>区では、学力向上のために、学校図書館やICT機器の充実などのハード面、算数・数学における少人数習熟度別クラス編成による指導など、小・中学校の違いや児童生徒の実態の違いに合わせて、様々な教育施策を実施して参りました。</p> <p>ご指摘のように、荒川区では読書活動に力を入れております。読書は子どもたちの国語力を向上させるために効果的です。ですが、読書量が直ぐに調査結果に反映するかについては、時間のかかることもあると認識しております。</p> <p>区でも、中学生の読書量や、中学校における図書館資料を使った授業の実施頻度等が伸びていった結果、平成27年度には全国の平均値に徐々に近付いてきており、中学生の学力について成果が表れています。今後も引き続き、教育委員会として学校図書館資料を活用した授業の実施や、読書活動を推進していき、子どもたちの学力がさらに向上するよう、取組んで参ります。</p>	○
8	<p>中学校のクラス編成を習熟度別にすれば、学力に課題のある生徒を見落とさないのではないか。</p>	<p>学校生活の母体であるクラス編成につきましては、小・中学校とも、児童生徒の実態に応じ、習熟度に関わらないで行っております。子どもは一人ひとり様々な個性をもち、よいところがあり、伸ばすところがあります。多様な考えや価値観をもった子ども同士が切磋琢磨しながら日々たくましく成長しております。教育委員会としては、クラス編成については、現状のままで引き続き実施して参ります。</p> <p>また、現在、小・中学校においては、特に差がつきやすい教科である算数・数学については全校で少人数習熟度別指導を実施しており、教師が全員の状況を把握しながらきめ細かく対応しています。</p> <p>引き続き、算数・数学については習熟度別のクラスによる指導を行い、さらに、分かりやすくきめ細かい指導を行って参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
9	<p>「核家族化や少子化の進行にともない、家庭の教育力の低下が指摘されている」とある。（【5】ふるさと荒川が学舎（まなびや）（5）「地域の教育力を高める」）とあるが、核家族化や少子化の進行というのは何十年も前から言われていること。家庭力の低下を指摘するのであれば、家庭環境等がどれだけ変化しているのかを数値で把握をして現状を認識すべき。</p>	<p>荒川区では、平成27年3月に「荒川区子ども・子育て支援計画（平成27～31年度）」を策定しており、この「荒川区学校教育ビジョン」もこうした区の計画と整合をもって作成しております。本計画では「18歳以下人口の推移」をはじめとする、区における子ども・子育てを取り巻く現状について、多くの統計結果資料を公表しています。</p> <p>併せて、荒川区「家庭における親の教育意識と青少年」意識調査とも整合を図っており、本調査には「(子どもからみた)父親像・母親像」「子どもとの接し方」「育てたい子ども像」などの区民の意識を経年で公表しています。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」はこうした統計資料等も活用しながら素案の作成を行いました。今後も、区内の関係部局と連携を密にしながら、現状をしっかりと把握して参ります。</p>	○
10	<p>改訂から改訂までを10年スパンで見るとは長いのではないか。現実味が無い。5年でいいのでは。</p>	<p>学校教育につきまして、国で告示する学習指導要領が毎回、10年に一度の改訂となっているため、「荒川区学校教育ビジョン」については、10年ごとの改訂を考えております。</p> <p>教育委員会としましては、「荒川区学校教育ビジョン」の具体的な推進を図るため、3年ごとに進捗状況の見直しを図りながら「荒川区学校教育ビジョン推進プラン」を示していく予定です。</p>	△

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
11	<p>今後10年人工頭脳（AI）の社会への浸透化に伴い、様々な教育施策が押し寄せてくる。普遍的な学力の向上は言を待たないが、活用・応用力もAIに即した対応が要求されてくる。</p> <p>しかしどんなに知識が向上しても、それを使いこなす人間がアブノーマルに成育したのでは、学力・知力も水泡と帰してしまう。</p> <p>幼児から実社会の規範教育を学校・家庭・地域の三位一体の中で育ませる環境にする。</p> <p>具体的に、荒川発で日本国中に周知できるものを競い、文化として後世に受け継がれていくようにする。例えば、歴史的に縁のある俳句等は、幼児から大人まで馴染むようなシステムをつくる。</p>	<p>人工頭脳（AI）の社会への浸透化が予想される今日、教育委員会としては、新しい教育に対応することと、教育の普遍的な部分である基礎的・基本的な事項の両方をしっかりと教育していくことは大変重要であると認識しています。</p> <p>また、子どもたちの規範意識の向上につきましては、ご指摘のとおり、家庭や地域と学校とが十分に連携し合っていくことが大切であると考えております。新たな「荒川区学校教育ビジョン」でもこの点については柱5「学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる」で掲げております。</p> <p>俳句につきましては「俳句のまち あらかわ」として、様々な取組を実施しております。学校では、国語の授業で先人の優れた俳句を鑑賞したり、自分で俳句を詠んだりします。校外学習の場で俳句を詠むこともあります。</p> <p>また、区としても、荒川区文化祭「俳句展示会」「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」「あらかわ俳壇」「俳句ハイク」や「英語俳句教室」など、小・中学生が学校の垣根を越えて集い、俳句を詠んだり、発表したりといった機会が多くあります。これらの事業をとおして、今後も様々な年齢の人々が俳句に触れ合えるよう努めて参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
12	<p>教育は、学校教育、家庭教育、社会教育の三者が連携を密にしていくことが大切である。</p> <p>学校に関しては、校長先生をはじめ、各先生方とPTAの相互関係が円滑であれば教育に適した環境で子どもが元気に成長していく。また、聞き上手、話し上手になることで学習能力がレベルアップする。</p> <p>最後にジャーナリストの池上 彰氏曰く、「新聞を読めば学力が上がり、読解力がついて、考える力が伸びる。自分が考え、答を探す力をつけてほしい。」新聞を読むことで様々な意見があることを知り、自分の考えをもつことができるのではないか。</p>	<p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」でも、柱5「学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる」に学校と家庭と地域が連携して子どもの教育を行っていくことが重要であるとしています。</p> <p>現在、校長、教職員とPTAはどの学校でも円滑に協力関係を築いています。また、話し方や聞き方については、国語の授業を中心に「話し方名人」「聞き方名人」になるべく、話の組み立て方やメモの取り方などを学習しています。</p> <p>新聞を読むことにつきましては、荒川区では、新聞販売店の方々にご協力をいただき、全校に新聞6紙を毎日配達していただいております。</p> <p>その結果、すべての児童生徒が日常的に新聞を読めるような環境が整っております。各学校で、引き続き、新聞を読むこと、新聞を活用した学習活動を充実させて参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
13	<p>英語教育を充実し、国際コミュニケーション能力を育成することについて、区立小学校を対象とした「ワールドスクール」及び中学生対象とした「イングリッシュビレッジ」は、ともに素晴らしい制度で、これからのグローバル社会で必須の英語に関して大変重要な取り組みであると考えます。</p> <p>とある児童が、「ワールドスクール」に参加したことを機に本格的に勉強を始め、英語に特化した私立中学校に入学することができたと聞いている。その子が中学校の「ワールドスクール」に参加したいと強く思ったが、区立中学在学という枠があり参加が叶わなかった。ぜひ、参加の資格を「区内在住」または「ワールドスクール卒業生」にも広げてほしい。私立中学校に入学したが、荒川区のボランティアとしても活動しており、十分に参加する資格はあると思うが、いかがだろうか。</p>	<p>「ワールドスクール」につきましては、区立小・中学校の校長をそれぞれ団長とし、児童生徒の引率には区立小・中学校のそれぞれの教員が担当するという、希望者のみではありますが、学校の夏休みの宿泊行事として実施しています。</p> <p>今回のご意見につきましては、「ワールドスクール」の今後の運営を考えていく上で、参考にさせていただきます。</p>	△

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
14	<p>全体的にとてもよくできていると感じた。特に、特別支援教育（柱1「夢につながる主体的な学びを推進する」（5）「すべての子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行う」）において、「一人ひとりの教育的ニーズに寄り添った指導を進めている」がよかった。今後もしっかりした対応をお願いしたい。</p>	<p>特別支援教育については、これまでも児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに寄り添った指導を進めて参りました。今後も、平成29年度から全小学校に教員が巡回指導する特別支援教室を導入するなど、これまで以上に児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、子どもたちの能力や個性を伸ばすため、きめ細かな教育を進めて参ります。</p>	○
15	<p>インターネットが世界に繋がっていることをどうやったら皆に認識させられるか。</p> <p>インターネットの良い面だけが強調され過ぎている気がする。不利な面を強調する必要があると思われる。</p> <p>それ以外は、任せてもそれなりの効果が出ると思われるが、その点だけは強調したい。</p>	<p>インターネットは便利なものであると同時に、インターネットを介在したいじめや犯罪が起きている現状を鑑みると、学校教育において、インターネットの使い方や情報モラルについて、しっかりと教育していく必要があります。そのため各学校において実態に合わせた「学校SNSルール」を策定いたしました。</p> <p>荒川区では平成26年度より全校にタブレットPCを導入し、全員の子どもたちがタブレットPCを使いこなすように教育しているところでございます。また、新たな「荒川区学校教育ビジョン」でも、重点項目として、柱1「夢につながる主体的な学びを推進する」に記載しております。今後とも、「メディアリテラシー」「インターネットリテラシー」「スマホリテラシー」などのリテラシーを含め、インターネットの使い方、良い点、不利な点などについてしっかりと教育して参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
16	<p>いじめに関して、いじめと不登校の相関的なグラフがあるが「不登校=いじめられている」とは限らないのではないか。</p> <p>ここに記されているいじめの対策は、殆どが対症療法である。いじめられている子どもを守る事も大切だが、もっといじめを未然に防ぐ具体策の議論が必要である。</p>	<p>ご指摘のとおり、不登校の要因は年々複雑化してきています。一つのことだけではなく、人間関係もふくめて、いろいろな要因が混じり合っていると考えられます。「不登校=いじめ」ではないと教育委員会としても認識しており、ご指摘のグラフですが、小・中学校の不登校数といじめの認知件数を別々のグラフとして示させていただいたものでございます。</p> <p>区においては、いじめ防止対策推進法に基づき、平成27年3月に「いじめ防止基本方針」を策定し、「区としていじめを絶対に許さない」「未然防止を徹底する」などを掲げて、いじめ防止に取り組んでいます。各学校においても「いじめ防止基本方針」を定め、子どもたちの実態に応じて、いじめの未然防止に向けて定期的に校内委員会を設けるなど、組織的に取り組むを実施しているところです。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では柱2「こころとからだの健全な育成を図る」(3)「いじめをゆるさない子どもを育てる」を重点項目としてこれまでの取組をさらに深め、すべての学校で未然防止をふくめ、いじめをしない、させない、ゆるさない子どもの育成を行って参ります。さらに、学校、家庭、地域が連携していじめ未然防止対策の強化を図るよう「荒川区いじめ問題対策連絡協議会等の設置に関する条例」を制定する予定です。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では柱2「こころとからだの健全な育成を図る」(3)「いじめをゆるさない子どもを育てる」を重点項目としてこれまでの取組をさらに深め、すべての学校で未然防止をふくめ、いじめをしない、させない、ゆるさない子どもの育成を図って参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
17	<p>いじめに関する記述の中に、SNSの記載がない。小学生と中学生では起こりうるいじめの質は大きく異なるはず。実態を把握すべき。いじめによる自殺などニュース等で報じられる事件では、学校や教育委員会の場当たりの対応や責任転嫁をする姿勢への不信感が語られている記事を目にする。荒川区ではそのようなことが絶対ないように取り組んで欲しい。いじめ防止対策推進法では、被害者が不登校や金品をとられたりしたいじめを重大事態と定義して第三者による調査を教育委員会や学校に義務付けるとされているようだ。学校または教育委員会が責任をもって対応する強い意志を示すべき。</p> <p>(同種意見：他1件)</p>	<p>区では、いじめ防止対策推進法に基づき、平成27年3月に「いじめ防止基本方針」を策定し、「区としていじめを絶対に許さない」「未然防止を徹底する」などを掲げて、いじめ防止に取り組んでいます。各学校においても「いじめ防止基本方針」を定め、いじめの未然防止に向けて定期的に校内委員会を設けるなど、組織的に取組を実施しています。また、各学校において実態に合わせた「学校SNSルール」の策定もしており、直接的ないじめだけでなく、ツイッターやSNSを使ったものも絶対に行ってならないことを全児童生徒に強く指導しています。さらに、学校、家庭、地域が連携していじめ未然防止対策の強化を図るよう「荒川区いじめ問題対策連絡協議会等の設置に関する条例」を制定する予定です。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では柱2「こころとからだの健全な育成を図る」(3)「いじめをゆるさない子どもを育てる」を重点項目としてこれまでの取組をさらに深め、すべての学校で未然防止をふくめ、いじめをしない、させない、ゆるさない子どもの育成を図って参ります。</p>	○
18	<p>学校と家庭と連携して生活習慣を定着させる。</p>	<p>家庭と学校が連携し、基本的な生活習慣を形成することについては、子どもたちの健全育成を図る上で大変重要ととらえています。新たな「学校教育ビジョン」では方向性3「基本的な生活習慣を形成し、健全な心身を培う」で基本的な生活習慣の形成について重要だととらえております。さらに、重点項目として柱2「こころとからだの健全な育成を図る」に記載させていただいています。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
19	<p>高齢者が増えている時代に、小・中学生は増えない。国をあげて対策を考えるべきである。</p> <p>まず、高齢者と小・中学生が数人ずつ顔を合わせる場を作ってもらい、高齢者は子どもから元気をもらい、子どもたちは高齢者に対する親切心を育てる機会を作れば素晴らしいと思う。</p> <p>一つの案だが、上記のグループづくりには、子どもたちの種々のグループ（合唱隊、ボーイスカウト、ガールスカウト等）の意見を聞いてもらっては如何か。</p>	<p>核家族化が浸透している現状の社会において、子どもたちが日常にお年寄りと接する機会が減っています。</p> <p>そうした状況を踏まえ、中学生が敬老の日近所にお住いのお年寄りを訪ねるようなボランティア活動を取り入れている学校もあります。特に中学校の防災部では、学校だよりをお年寄りに運ぶなどして、定期的に訪ねさせていただいています。地域の防災訓練や避難所開設訓練、永久水利を使用した訓練、あらかわBOSA Iの参加などでも地域の高齢者と接する機会を得ています。</p> <p>また、中学生は勤労留学として、地域の商店街や事業所などで職場体験をさせていただいており、職場体験をとおして、高齢者と知り合うこともあります。</p> <p>頂戴したご意見を参考にこれからも地域の方々やお年寄りと一緒に学校が連携した取組について進めて行っていくよう努めて参ります。</p>	○
20	<p>荒川区だけでなく、地域の勉強（不忍池の下町風俗資料館や尾久のぬりえ美術館等）など、荒川区にとどまらない下町出身の誇りをもってもらえるようなものもよい。</p>	<p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では、柱3「体験的な学習活動をとおして、よりよい未来社会を築く」で、地域を大切にすることを掲げています。</p> <p>各小・中学校では、職人教室を開いたり、全小学校で「あらかわの伝統技術展」に参加したりして地域への愛着や誇りをもてるような教育活動を大切にしています。</p> <p>さらに、学校においては、校外学習等で区外にも訪問し、優れた先人から学ぶことを大切に、郷土愛を育む取組を進めて参ります。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
21	<p>「教師が子どもと向き合う時間を確保する」(柱4「教師が育つ学校をつくる」(4))という見出しがあるが、これは教師として当然のことではないか。見出しに挙げることなのか。</p>	<p>教育委員会としても、教師が子どもと向き合うことは基本であり、当然のことであると認識しています。しかしながら、近年、教員の多忙化が激しくなっている状況があり、休み時間や放課後に子どもと向き合う時間がもてない教師がいる状況にもなっています。</p> <p>教育委員会としては近年の教員の多忙についてしっかりと認識をして、多忙の緩和について取り組んでいくことを決意しております。今回新たな「荒川区学校教育ビジョン」において、現場の教師の負担の緩和を強く考え、示させていただきました。</p>	△
22	<p>長期的な教育方針も大変よいことと思うが、教師の仕事が大変らしいので児童と対話をするのも大変なようである。</p> <p>また、児童の学習も以前とは異なり、教えてもらっているという態度も友達的になっているようである。以前は、その日に理解できない児童に対して担任の教師が居残りで教えていることもあったように思う。</p> <p>教師も少し時間のゆとりがあるとよいと思う。</p> <p>(同種意見：他1件)</p>	<p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」では柱1「夢につながる主体的な学びを推進する」(5)「放課後等の補充教室を充実し、学習習慣を身に付ける」で「あらかわ寺子屋」を実施し、ボランティアの方々に朝や放課後に学習を見てもらっています。また、柱4「教師が育つ学校をつくる」(4)「教師が子どもと向き合う時間を確保する」で、教師が時間のゆとりがもてるような施策を推進するよう、項目立てをしております。</p> <p>さらに、教育委員会では、現場の教師の多忙さを緩和するため、部活動の外部講師等の非常勤職員等を配置しています。また「荒川区学校教育ビジョン」の具体的な推進を図るため、「荒川区学校教育ビジョン推進プラン」を3年ごとに示していく予定です。その「推進プラン」で示すため、教師の事務作業の負担軽減の方策について検討を始めています。少しでも教員の多忙が軽減されるよう、今後とも努めて参ります。</p>	☆

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
23	<p>先生方は、研修、講習などで出張が多く、多忙となっている。どのような方向で考えているのか。</p>	<p>教員にとって研修は、人材育成の面から必要不可欠なものであると認識しております。教員は研修を受講することによって、最新の教育動向や教育課題を学び、自らの授業力を向上させていきます。特に近年は教育の求められる課題は複雑多岐に渡るため、教員の学ぶべき事柄も増えております。そのため、教育委員会としては、研修の質をさらに向上させることで研修を有意義なものにするよう努めています。</p> <p>また、若手教員を対象とした研修会では、自校以外の教員同士が研修の場で交流を図ることによって、悩みを相談し合えるといった効果も期待できます。研究主任や、生活指導担当といった、校内の役割ごとの教員研修の場でも、自らの役割を進めるための方法を研修することによって、力を付けていくと考えております。今後も現場の教師のニーズにあった研修を企画するとともに、質を高めて参ります。</p>	○
24	<p>校長を「経営者」とするのが腑に落ちない。校長は教育者であり、経営者ではないと考えている。</p>	<p>ご指摘のとおり、校長はまずは「教育者」であり、児童生徒への教育活動に優れているからこそ、校長に任命されます。</p> <p>校長は、「教育者」であると同時に「学校経営」を行う者としての役割が付加されます。「学校経営」は、一般の株式会社などの経営とは異なり、学校設備と所属する教職員、教育委員会から得られる予算を最大限に活用して、児童生徒の育てたい理想像や自校の目標を掲げ、その理想像に近づけていくためにどのように教育活動を行っていくかを「学校経営方針」として保護者や教職員に示し、実現するよう教職員全体を導いていきます。これは校長でなければできないことです。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」ではこの校長の「学校経営」の役割を「教育者」であることとともに重視しているため、敢えて「経営者」という言葉でこの役割を示しています。</p>	○

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
25	<p>「校長にはすぐれた学校経営力が求められている」との主旨の内容（柱4「教師が育つ学校をつくる」（1）「校長の裁量を活かし、特色ある学校経営を推進する」）があるが、義務教育の公立学校に「学校経営」ということばに違和感がある。校長はすぐれた経営者であるべきなのか。それならば、民間校長の導入も検討した方が良い。学校を運営するためのマネジメント力は必要だとは思いますが、校長にはすぐれた教育者であって欲しい。</p>	<p>ご指摘のとおり、校長はまずは「教育者」であり、児童生徒への教育活動に優れているからこそ、校長に任命されます。</p> <p>校長は、「教育者」と同時に「学校経営」を行う者としての役割が付加されます。「学校経営」は、一般の株式会社などの経営とは異なり、学校設備と所属する教職員、教育委員会から得られる予算を最大限に活用して、児童生徒の育てたい理想像や自校の目標を掲げ、その理想像に近づけていくためにどのように教育活動を行っていくかを「学校経営方針」として保護者や教職員に示し、実現するよう教職員全体を導いていきます。これは校長でなければできないことです。</p> <p>新たな「荒川区学校教育ビジョン」ではこの校長の「学校経営」の役割を「教育者」であることとともに重視しているため、敢えて「経営者」という言葉でこの役割を示しています。</p> <p>民間校長の導入につきましては、参考ご意見とさせていただきます。</p>	△
26	<p>「校長の魅力ある学校経営によって～すぐれた人材が輩出される」（柱4「教師が育つ学校をつくる」（1）「校長の裁量を活かし、特色ある学校経営を推進する」）とあるが、中には努力が足りない校長もいる。はっきり言いきれぬのか。</p>	<p>校長は優れた教育者ですが、校長になったときに付加される「学校経営」の力については、校長が努力して伸ばしていくものです。</p> <p>教育委員会は、すべての校長が学校経営を推進しやすいよう、校長を対象とした研修の実施や、人材育成、予算活用などについて、支援をして参ります。</p>	△

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
27	<p>「家庭の教育力を高める」(柱5「学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる」(5))とあるが、保護者と子どもの認識の違いを家庭に投げかけ、家庭内で考え話す事が重要である。</p> <p>現在いくつかのアンケートが行われており、保護者と教師の認識の差、子どもと教師の認識の差は着目されがちだが、保護者と子どもの認識の差も見逃せないはず。同じ質問項目で保護者と子どもの評価差が大きな設問内容に関しても適切に家庭に投げかけるべきではないか。</p>	<p>各学校は、年度末に学校関係者評価として保護者及び児童生徒に同じ質問のアンケートをとり、翌年度には結果を公表しています。</p> <p>ご指摘いただきましたとおり、今後もその結果を公表していくこと、ご家庭でも活用していただくよう保護者会や学校だよりなどで、校長から、結果についてご説明をさせていただくように学校と連携を図って参ります。</p>	△
28	<p>「今後も、就学人口の動向を踏まえて普通教室等を確保していくとともに～良好な教育環境の整備を推進する」(柱6「良好な教育環境と体制を整える」(5)「良好な教育環境を整備する」)とあるが、今年度から全校で「にこにこすくーる」が始まり、一部の学校で実施されている学童クラブはニーズの高まりが予測されており、来年度からは特別支援教室の全小学校での導入が予定されていると聞く。防災拠点としての機能も併せもち、備蓄倉庫も必要。様々な施策を打ち出すのは良いが、良好な教育環境が損なわれないように計画的に進めていくべき。</p>	<p>教育委員会では、学校施設について普通教室や学校教育に必要な設備を整備しています。</p> <p>ご指摘のとおり、「にこにこすくーる」の全小学校での実施や、一部の小学校で学童クラブを校内実施しているほか、災害時に学校は避難所となるため、全校に備蓄倉庫を設置するなど、学校教育に支障のない範囲で学校施設の有効活用を図っています。</p> <p>特別支援教室の導入も確実に対応し、今後も、計画的に整備を進め、良好な教育環境の確保に努めて参ります。</p>	☆

※ ○：記載済み、☆：「推進プラン」に盛り込む、△：参考として受けとめる

No	意見の概要	区の考え方	※
29	<p>現実に大規模校と小規模校があるが、自由選択制や学校選択制について、どう考えているか。</p>	<p>学校では年度末に、児童生徒、保護者、地域の方々からアンケートをとる形で学校評価を実施しております。皆さまからご意見をいただき、それを元に全教職員で振り返り、特に、満足度の低い部分については、改善策を検討し、実施しております。</p> <p>学校選択制度につきましては、保護者からのアンケートで、約7割の皆様から賛成というご評価を頂いております。また、教育委員会では、毎年度、学校選択制度推進委員会を開催し、制度の改善を図っているところです。今後も、適正な制度の推進に努めて参ります。</p>	△
30	<p>荒川区に核となる（目指すべき）学校の設立を望む。小・中一貫校や、中・高一貫校を目指す人は学習に力をいれる。そのような学習に力を入れた子どもたちを荒川区外の学校に通わせることになってしまう。荒川区内にそのような学校があれば、そうした学習に意欲的な子どもたちを荒川区内に留めておくことができる。駅の近くにそういった学校ができれば、人が集まり、企業や大学も注目し、他の地域からも通ってくる人が増えるのではないか。</p> <p>都市計画等、実現できるかどうかはハードルが高いかと思うが、目指すべき、中・高一貫校を設立することで、来るグローバルな社会で活躍できる荒川区民が誕生するのではと思う。</p>	<p>区におきましては、第三中学校、汐入小学校、汐入東小学校の3校で、小・中一貫教育について研究を行っており、義務教育9年間を見通したカリキュラムの作成などをしております。教育委員会としても、この成果を区内他の小・中学校と共有しております。</p> <p>小・中一貫校など、頂戴しましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	△